



6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 緑化木のかん水、病虫害対策</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑化木のかん水、病虫害対策 ○緑化木の剪定 <p>この時期は、春に伸びた新梢が生長し、枝を充実させる時期となる。</p> <p>ア かん水</p> <p>この時期、庭木の成木では、かん水はほとんど必要ないが、移植したものや子苗は、晴天が続き土壌が乾いたら、午前中にかん水を行う。</p> <p>むしろ過湿にならぬよう気をつけることが肝要で、梅雨の大雨で地表面に雨水が溜まることが予想される箇所は、溝を掘って雨水が溜まらないよう対応する。</p> <p>イ 病虫害対策</p> <p>高温になると、炭そ病（葉に灰色でまわりが暗褐色の1 cm ぐらいの病斑が現れる）や褐斑病等の病害が発生しやすくなる（写真1、2）。罹病した葉等は早期の場合には被害箇所を摘み取り、症状がひどい場合には殺菌剤を散布する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="539 1238 890 1500">  </div> <div data-bbox="956 1238 1307 1500">  </div> </div> <p>写真1 ツバキの炭そ病 写真2 ツツジの褐斑病</p> <p>害虫については、気温の上昇に伴いチャドクガやイラガ、ハマキムシ類等の食葉性害虫、アブラムシ類やロウムシ等の吸汁性害虫の発生が多く見られるようになる。</p> <p>特に、チャドクガは生涯を通じて毒針毛を持ち、触れると激しいかゆみを伴いひどくかぶれるので、衛生害虫としても防除の重要性が高い。幼虫が若齢の場合、葉裏で集団生活をしているので、毒針毛に触れないようビニール等で覆い、被害葉を摘み取り、適切に処分する（写真3）。被害がひどい場合は、殺虫剤を被害状況に合わせて散布するが、チャドクガ</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 緑化木の剪定</p>	<p>は折れて飛散した毒針毛に触れただけでもかぶれるため、薬剤散布時には十分注意する。毒針毛を固め飛散を抑える固着剤があるので利用するとよい。刺された場合はガムテープ等でできるだけ早く毒針毛を抜き取り、流水で洗い流し、医師の診断を受ける（写真4）。なお、本害虫は剪定で通風を良くすることで発生頻度を抑えることが可能である。</p> <p>また、大量に発生するアブラムシ類は、発生状況に合わせて殺虫剤を散布し、ロウムシ類は、見つけしだい竹ベラ、歯ブラシ等で除去する。アブラムシ類やロウムシ類が発生すると、すす病を併発するので、被害が大きくなる前に早期対応が必要である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>写真3 チャドクガ幼虫 写真4 チャドクガによる皮膚炎 ※出典 写真3 指宿市ホームページ 写真4 西日本新聞記事 (https://www.nishinippon.co.jp/item/n/641690/)</p>
	<p>5月下旬以降は新芽が展開し終わって、枝葉が固まる時期にあたるので、木を大きくしたくない場合は、一回り小さく切り戻しておく。</p> <p>一般的には、常緑広葉樹の剪定時期であるため、樹形を整えたり病虫害を防ぐためにも不要な枝の剪定を行う。</p> <p>落葉広葉樹については伸びすぎた枝を切る程度とする。</p> <p>また、ツツジ等の花木については、花が終わったら花芽分化前に、できる限り早く刈り込み等の剪定を行う。</p> <p>ただし、樹種によって、開花の時期、実や葉などの楽しみ方で剪定時期や方法が異なるので、よく確認してから行う。</p>

(作成 林業研究センター)